

親鸞さまの

【本文】

像末五濁の世となりて

釈迦の遺教かくれしむ

弥陀の悲願ひろまりて

念仏往生 生さかりなり

訳

お釈迦様ご在世の時を遥かに経た
今の混乱の世においては、

そのお釈迦様と同じように教えを受け
止め、教えの通り行い仏様に成ることが
難しくなりました。

しかし、阿弥陀如来様は、そのような
今の世と私たちを見かねて、大いなる
慈悲の願（極楽浄土で成仏させよう
という願）を弘めて下さいました。

だからこそ、今その願いを聞きお念仏
する人が往生し成仏することが盛んにな
っているのです。

【意】

【私の味わい】

夏休みになると、子供たちは長い休みで心浮き立つ一方、しばらくすると必ずやっ
てくるのが積みあがった宿題との格闘です。心配する親をよそに、子供たちは「大丈
夫、大丈夫」等とどこ吹く風です。かくして、最終日目前になっていつもの光景が繰り
広げられます。子供は汗をかきながらポスターの絵を塗り、その脇から母親が手伝い、
父親が自由研究を仕上げるのです。一様に疲れ切った表情で夏休みが明けていくのは
毎年恒例になりましたが、よくよく考えてみると自分もかつてそうでした。

先生は、宿題は毎日計画的にと「本来こうあるべき」を教えられるでしょう。しかし、
程度の差こそあれ実際には見かねて両親が手助けしているのが「現実」ではないかと
思います。お釈迦様も、「こうあるべき」を説かれました。しかし、時代を経て世も人も
「現実」になってしまいました。これを見かねたのが阿弥陀様であると親鸞様は仰ってい
ます。このままでは、成仏する見込みのないままに、最終日を迎えてしまう人のなんと
多いことかと阿弥陀様はご覧になり、お慈悲を垂れて下さったのです。「南無阿弥陀
仏」を聞かせ、信じさせ、（お念仏を）称えさせて極楽浄土にて成仏させると願われ
人々が極楽へ往生し仏に成ることが出来るようになったのです。

おかげさまと聞き信じてお念仏させて頂きましょう。そうでなければ、折角頂いた
ご縁を勿体なくしてしまいます。自分の「現実」と、阿弥陀様のお慈悲を聞き続け

お念仏し続けたいものです。

（悠水）